

平成15年第2回三重県議会臨時会

RDF貯蔵槽事故調査 特別委員会を設置

八月に起きました三重ごみ固形燃料発電所のRDF貯蔵槽での爆発事故等において、消火活動にあたってこられた消防職員二名の方が命をなくされ、作業にあたっていた方がけがをされました。県議会といたしまして、亡くなられたお二人の方に対し、心から哀悼の意を捧げるとともに、残されたご遺族の方々に衷心よりお悔やみ申し上げます。同時に、負傷されました方々の一日も早い回復を念願しております。

この事故が県民に与えた不安は非常に大きなものがあることから、県議会でも八月二十五日に急ぎよ第二回臨時会を開会し、事故に関する原因究明及び再発防止策等を調査するため、RDF貯蔵槽事故調査特別委員会を設置しました。

委員会委員

委員長	田中 覚	副委員長	藤田 正美
委員	日沖 正信	松田 直久	
水谷 隆	岡部 栄樹		
芝 博一	三谷 哲央		
貝増 吉郎	木田久主一		
山本 勝	西塚 宗郎		
萩野 虔一	西場 信行		
岩名 秀樹	永田 正巳		

平成15年第3回三重県議会定例会

RDF貯蔵槽事故や 「県民しあわせプラン」など 活発に議論

平成十五年第三回定例会は、九月十七日から十月十日まで、二十四日間の日程で開催されました。

今回の定例会では、「平成十五年度三重県一般会計補正予算（第二号）」ほか三十八件の議案が審議されました。

十七日の開会日には、知事から上程された議案の提案説明が行われた後、県議会の会議規則を一部改正する議提議案を原案どおり可決しました。また会期中、代表・一般質問合わせて四日間の質疑・質問が行われ、十五人の議員が質問に立ちました。

十月三日、六日、七日には常任委員会が開催され、議案と請願の審査が行われました。

閉会日の十日には、知事提案の議案三十六件を原案どおり可決するとともに、請願五件を採択しました。また、公害審査会委員の人事関係議案に同意した後、議提議案として上程された、いなべ市の設置に伴う県議会議員の選挙区の特例に関する条例案を可決しました。また、意見書案四件と「三重県議会の基本理念と基本方向を定める決議案」一件を原案どおり可決しました。さらに、地域政策（防災対策）調査及びRDF貯蔵槽事故調査の各特別委員会がこれまでの調査の経過を踏まえ中間報告を行い、閉会しました。

代表質問

新政みえ

RDF貯蔵槽事故

萩野 虔一 議員
(南牟婁郡選出)

問

今回の三重ごみ固形燃料（RDF）発電所の事故について、環境に配慮し、資源循環型社会をめざしていく方向は間違いない理念だと思いますが、今回の爆発事故では尊い人命が犠牲になっていることであり、事は重大です。

一方で、県内七か所のRDF製造事業所やごみをRDF化している二十六市町村に深刻な打撃を与えています。このままの状態が続くならば、ごみは行く場を失いますし、関係市町村の財政負担の増大も深刻です。

ごみをRDF化している二十六市町村等で構成される県RDF運営協議会は、安全を点検、確認のうえ、県民の理解を得ながら早い再稼働を望んでいます。また、事故後の関係市町村でのごみ処理にかかる財政負担について、そのあり方を知事はどのようにお考えなのか、所見をお聞きます。

答

発電所の運転については、事故調査専門委員会で原因が究明

され、施設の安全性が確認されるまでは再開しないこととしています。同委員会の中間報告では、事故などの全国的な情報共有手法や地域の安全対策等の検討、また、焼却や発電施設など一連の装置の安全性と安定性の確保が求められています。これらの指摘については、施設の再開を判断する場合に必要不可欠と考えています。

また、ごみ処理の受入先でかかる費用について、関係市町村において財政的な負担を抱えている厳しい状況は十分に認識しています。一方、その費用を最終的にどこが負担するかについては、事故原因が究明され責任分担が確定した時点で決定されるべきと考えていますが、議会や市町村の皆様のご理解を得られるよう、今後、責任をもって調整していきます。

- その他の質問事項
- 知事の基本姿勢
- 県民しあわせプラン



三重ごみ固形燃料（RDF）発電所

自由民主党・無所属議員団

安心のできる医療政策

溝口 昭三議員
(津市選出)



これまで救命救急センターの整備促進を再三質問してきました。北勢や南勢地区には設置されて

いるものの、県都津市を含む中勢伊賀地区には救命救急センターがなく、特に津市では脳卒中や心臓病の救急対応が遅れていると、繰り返し指摘してきたところです。確かに、三重大学医学部附属病院では、脳卒中や心臓病などの救急搬送にかかる受け入れの拡大に努力いただき、関係者に感謝しているところです。しかし、例えば、脳卒中の疑いで三重大学病院などの脳外科専門病院へ初期に搬送された患者は、昨年度は全体の約四十五%ですが、他の地区では約七十〜九十五%にもなります。また、心筋梗塞などの救急対応も同様であり、救急医療の地域格差は著しいものとなっています。昨年の本会議で担当部長は「三重大学医学部附属病院への救命救急センター設置について関係者と協議したい」と答弁されましたが、知事はこのことについてどのように取り組む決意なのか、所見をお聞かせします。



県都津市を含む中勢伊賀地域の救命救急センターの整備につきましては、現在、三重大学医学部附属病院への設置が最適だと考えて

います。このため、従来から三重大学との協議を続けてきましたが、今年八月に、同病院から、再整備にあたって救命救急センターの設置を計画している旨の意思表示がありました。これに基づき、現在策定中の三重県保健医療計画の中に三重大学医学部附属病院を救命救急センターの整備場所として記載するよう、現在検討を進めています。なお、その時期につきましては、同病院の再整備の進捗と関連しますが、より早期に実現できるように引き続き関係者に働きかけていくなど、しっかりと対応したいと考えています。

- その他の質問事項
- ・ 知事の政治姿勢
- ・ 産業の活性化と雇用対策

他



救命救急センター救急処置室

無所属・MIE

県立病院における女性専門外来

杉之内 昭二議員
(四日市市選出)



女性の多くが、男性医師の診察を受けることに抵抗があると

か、女性専門外来が必要だと思っているというアンケート結果が出ています。また、女性専門外来を設置するというのは全国的な動きにもなっています。知事は、「県民が主役の県政」を標榜されていますが、それは、特別なニーズを持つ人には特別な行政サービスを提供していくという決意が含まれていると理解しています。それならば、三重県内でも、女性が安心して診察が受けられるような女性スタッフによる女性専門外来を設置すべきです。

幸い県立総合医療センターでは、女性スタッフによる乳腺外来が既に設置されていますので、これを一歩進めて女性専門外来として、県内でのリーディング・ケースとし、取組を進めてはいかかでしょうか。あらためて県立病院への女性専門外来の設置について知事の所見をお聞かせします。



医療の高度化、専門化が進む中で、女性が安心して総合的な受診ができる女性専門外来の設置は重要な課題の一つであると認識しています。女性医師による女性のための女性専門外来の設置には、内科・外科・産婦人科・精神科などの研修を行った経験豊富な女性医師の確保が必要となります。

県立病院全体の女性医師の割合は一割程度であり、女性専門外来を設置するためには十分な人材の確保が困難な状況ですが、関係機関との連携により、女性専門外来の設置に向けて、是非、前向きに努力していきたいと考えています。

- その他の質問事項
- ・ RDF発電所爆発事故
- ・ 県民しあわせプラン

他



県立総合医療センター
(女性スタッフによる乳腺外来設置)

一般質問

RDF発電所爆発事故

山本 勝議員
自由民主党・無所属議員団(桑名市選出)



爆発事故を起こした三重ごみ焼却施設(RDF)発電所については、施設建設と完成後の管理運営を含め、企業の技術提案を募集し審査する「プロポーザル方式」によって契約が進められました。最終的には、発電効率が大きく評価され富士電機(株)が受注しました。当時、学識経験者や県職員等により、受注業者を選考する審査委員会が設置されましたが、「爆発事故を起こした貯蔵サイロは話題にならなかった。」、「RDFの性質がよくわからな